

「全鍍連」 2016年 10月号 巻頭言

全鍍連環境委員長 服部 一彌 (株)ハツメック 代表取締役社長)

「サポーティングインダストリーからリーディングインダストリーを目指して」

我々の産業であるめっき加工は基礎産業の中でも大変重要な役割を担ってきた。鉄はめっきにより腐食から守られ、また、その不細工な顔立ちは Ni めっきやクロム、金めっきなどで化粧され、世の中を生き抜いてこられた。さらに、電子機器においてもめっきが重要な役割を果たし、電子機器は発展してきた。そんな産業において重要な役割を果たしている業界であるにもかかわらず、業界の衰退に歯止めがかかりません。何故なのでしょう？

やはり、従来型製造業の新興国シフトによる空洞化と大手企業の内製化がその大きな原因ではないかと思われます。その中、わが国で将来成長が期待されている産業分野が医療機器と航空機であります。この分野でも間違いなくめっきは必要とされるでしょうし、この将来、日本で成長する分野で我々めっき専門業者が存在意義の大きな役割を担っていかねばならないと思います。そのためには我々はどう対処し、行動しなければならないのでしょうか。

先日、弊社に三重県の職員が来社されました。彼らは航空機産業を三重県に取り込むために組織された専門の職員でした。

2015年に三重県の松阪市（松阪牛で有名な町）にあった三菱重工のエアコン工場（閉鎖される予定であった）を航空機の工場として再稼働できないか、知事が三菱航空機にお願いして MRJ の尾翼を製作する工場として再出発する運びとなりました。また、当該工場の周辺に関連会社を集結することで、一大航空機産業クラスターが形成されることを目論み、工場団地も整備しました。

ところが残念なことに、この工業団地に三重県企業が1社も入居しなかったのです。そのため、三重県は県内企業に航空機製造に参入してもらうため、専門組織をつくり、参入へと啓蒙活動をしているのです。その甲斐あって、色々な企業が JIS Q などの航空機規格を取得し始め、それなりの形になりつつあります。ところが表面処理業（特殊工程）だけが現れないのです。彼らも調べるうちにキーワードがこの特殊工程（表面処理）にあると認識しているようです。逆に特殊工程を認定（NADCAP）した企業を県内で擁立出来れば、航空機クラスターはできると確信しているのです。

今、全国でも NADCAP 取得企業はほんの一握しか存在しません。それだけハードルは高いのでしょうか、ここをクリアできれば、我々めっき業界はサポーティングインダストリー（下請、川下産業）からリーディングインダストリーにランクアップできるのではないのでしょうか。そのためには足りないキーワードを補える仕組みが欲しいところです。

日本のめっき業者は大変優秀な企業が多く、どんな産業においても本来中核的役割を担っていてもおかしくないと思う

のですが、現在のポジションに甘んじているのは技術力以外の「+α」が不足しているからではないかと思います。めっき産業が次世代の製造業の中核的役割を担う業界になるため、業界あげて頑張りたいものです。そのことが業界活性につながる早道ではないでしょうか。